

花と緑の情報をお届けします。

# Green Sketch

グリーンスケッチ

冬号  
NO. 22  
2004

特集

● 緑と花のまちづくり  
緑花推進シンポジウム

## 植物に親しむ .....5

早春を楽しむ「フラワーアレンジメント」をご紹介します。

## 花と緑のイベント情報 .....6

新潟県立植物園「花と緑の教室」、「花と緑のカルチャープラザ」他

## にいがた四季の散歩道 .....7

〈名木・巨木編〉2つの小学校で大切に守られている名木をご紹介します。

●読者の広場 ●地域の情報コーナー ●緑花センター掲示板



財団  
法人

新潟県都市緑花センター



にいがた「緑」の百年物語に参加しています。

# 緑と花のまちづくり

地域からまちへ 緑を活かしたまちづくり



主催：財団法人新潟県都市緑化センター  
協賛：社団法人新潟県公園緑地建設業協会  
後援：新潟県

開催日：平成15年10月31日(金)  
開催場所：長岡グランドホテル

(財)新潟県都市緑化センターでは、第15回全国都市緑化フェアを契機に「緑と花のまちづくり」について県内各地域において、それぞれの地域に合せた緑花推進の手法を考える緑花推進シンポジウムを開催しています。今年度は長岡地域で開催しました。その内容をご紹介します。

## 活動のきっかけとその内容

**コーディネーター** 本日のテーマは、地域からまちへ 緑を活かしたまちづくりです。それぞれの活動や学ばれている中で、活動のきっかけとその内容についてお伺いします。

### 地域植物の保存育成

**高橋** 私共の会は、法人諸団体の応援を頂き平成13年度に設立され、地域植物の保存育成を大きな柱にしています。それは、柏崎の海岸や山にある植物がだんだん絶えてきており、自然を大事にしようという考えからです。

この地域には、リュウキンカの群生地や黒姫のフナ林から染み出る清水の池があります。池にはミツガシワという美しい花が咲き、珍しい昆虫類がいます。しかし、葎が生い茂り池を狭めているため、葎対策が必要となっています。

### 植物との触れ合い

**古塩** 私は小学校を中心にした地域の花いっぱい活動です。小学校は児童数54名で長岡市の中でも小さな学校です。

活動の発端は、今の総合学習の前身にあたるチャレンジ21という県の事業の取り組みです。マンパワーという面では限られていましたが、長続きする事を第一に考えました。それと、子供達に生き物の命の大切さ、育てる楽しさ、あるいは逆にその苦勞を体験させたいという事も理由の一つです。

活動は、JRの前川駅から小学校までの道路にサルビアをプランターに植えています。活動を長続きさせるため、市や県の花いっぱいコンクールに毎年参加し、今年は、長岡市、

新潟県ともに優秀賞を頂きました。マンネリを防ぐため、川原にある荳を刈ってきて、細かく刻んでプランターの底に敷くなど、色々工夫を重ねています。小さな学校ですので、保護者や教職員の皆様の努力、それからお年寄り等地域の方々の方々の参加によって、ここまで4年間続いてこれたのだと思っています。

### 植物の癒しの効果

**川瀬** 一人の医療法人の活動です。10年前に神経内科医院を開業しました。神経内科は一人の受診時間がとても長く、患者さん(会員)をお待たせして具合が悪くなつては困りますので、環境を整えたいと思いました。職員に対する環境づくりも経営者側として課題でした。

平成8年、痴呆のお年寄りを受け入れるリハビリ施設にふるさとの森を作りました。300本ほどの小さな三条の古来の植生の森です。そこでは非常に良いリハビリができました。昨年、クリニックの隣の休耕田に、難病の方の新しいリハビリ棟を作った際ビオトープを計画しました。現在、市内の緑化ボランティアのお力や県の助成金などを頂いて、ビオトープを再生しています。

正面玄関の庭づくりは、地域通貨のラテ券を使ってガーデニングのポ

ランテアにお願いしています。次にイメージしている所は、ふるさとの森で毎年出てくる実生の苗を活用したスタッフ駐車場の緑化です。更には、古い建物の壁をカバーするためツタの苗を増やし、会員さんのリハビリを兼ねスタッフの協力で壁面緑化も始めています。

### 花と街並み景観

**渡邊** 私共の会は、緑とは全く関係が無い状態から発足しました。平成8年に旧建設省から出雲崎が歴史街道に認定され、引き続き、県から川づ



## 渡邊常侃



出雲崎町在住 出雲崎妻入りの街並み景観推進協議会会長

平成8年に建設省より海岸地区が「歴史街道」に指定され、更に同年、県からも「新潟県作りモデル事業景観形成地区」の指定を受けたことをきっかけに、町が地域及び団体から委員を選出して景観推進協議会が発足しました。景観の保全、生活環境の向上などの面から協議した結果、住民の関心の高い緑で街の景観を統一してはと言う意見があり、緑化活動を続けています。



くりモデル事業の景観推進地域に認定されたことから、妻入りの街並み景観推進協議会ができました。全国的にも有名な出雲崎の妻入りの街並(3.6キロ)の景観を如何に保全するかが協議会発足の原点でした。そこで、私共会員が力を合わせてやる

うと、街並を歩いて優しくなるような花を植える運動が始まった訳です。

### 景観と街の歴史

**亀田** 私は、環境デザイン学科で建築の街づくり、歴史的建造物の保存など環境に関する分野を学んでいます。今は、卒業研究で景観広場と歴史の関係性をテーマに、その土地の歴史をいか



## ●パナリスト 亀田由香

(かめだゆか)

長岡市在住  
長岡造形大学 環境デザイン学科 4年生

私は、歴史と公園の関係をテーマにした卒業研究に取り組んでいます。街中や住宅地の線が線や点になってしまうのは、しかたありませんが、面と線をつなぎ緑のネットワークが形成されれば良いと思っています。住民が、どれだけ自然を意識しているか、自然と生活の場を切り離さずに考えられるかが、重要だと思っています。

くるのではなく、その土地、地域の自然や地域の特性と人間の営みとの接点で織り成されるものだと思います。

### 里山の保全

**コーディネーター** 三条ホタルの会は、ホタルをひとつの指標と捉え、三条の大崎町丘陵公園の里山の保全活動を行っています。里山を守るには木を植えるだけではなく、切ること(間伐)も大事です。切った木で炭を焼いています。ホタルの出現する大崎山の沢は、U字溝が敷設されてホタルが住みにくい環境になったため、焼いた炭を沢底に設置してバクテリアの繁殖や水質浄化を実験的にを行っています。毎年夏に行っている五十嵐川自然塾では、昨年、川の歴史と自然をたどるマップを作りました。その活用法としてウォークラリーを企画し、そのコース上には昔、川の治水に尽力された方に因んでツツジを植えて、植栽にストーリー性を持たせました。

### 課題や問題

**コーディネーター** 現在、皆さんが抱えている課題や問題についてお伺いします。

### 棚田の保全

**高橋** 荒れた棚田は蒼で生い茂り、山手の棚田を守るのは非常に難しいです。5年10年後に萱より大きくなるキハダの木を植えています。迷いはありますが棚田の逆に言えば生き返りだと考えています。私共の地域の上の棚田は、企業サイドが平場の花見と重ならないよ

### コーディネーター

風景とか景色は人間だけでつ

うに八重桜を植えて観光地化しています。**コーディネーター** 棚田を棚田として保全するのは難しい訳ですね。三条の里山はほとんどが私有地のため、思うように木を切ったり植栽ができない悩みがあります。これは大きな課題だと思います。



**古塩** 活動する上で交通安全が一番気を使います。特に、夏場の朝夕2回の水やりの時は、大体通勤時間帯と重なります。いくら良い活動でも交通安全が第一です。



週5日制になり授業時数の減少で、学校としても作業時間を作り出す苦労があるのだと思います。それで、運動会や文化祭などの行事に合わせて行う工夫も最近は見られるようになっています。

**校長先生(会場より)** 天気のよい日は、子供たちがベットボトルを1、2本持って、朝水くれに行っています。長岡市の緑化推進委員の方から、赤玉土はお金がかかるから、替わりにプランターの鉢底土に保水と水抜き効果のある菅を使いなさいと教えられました。

### 花・樹種の選定

**古塩** 赤い色のサルビアが一斉に咲いた時の光景を思い出しました。子供達に花を楽しむ体験をしてもらいたい事と、上手に管理すれば翌年の春まで咲いているくらい長く楽しめるという事の2点です。

**亀田** 花とか樹種を選ぶ時も、コンセプトに合ったものがいいと思います。以前、平和をテーマに公園の設計をした時のヒトツバタゴの花は、小さい花が集まって一つの花になっていることを、平和の願いが集まっているというように関連づけました。

**コーディネーター** 色々な樹種の選定にストーリー性があると、地域の人の見方も変わり、コンセプトも得られやすいのかなと感じます。

**渡邊** 最初は、200個のプランターを住民に配布して、それぞれ適当に植えてもらいました。そのため、各家庭がバラバラで統一感も何もありませんでした。せっかくプランターを配布するのだから、花の統一や冬場の枯れた植物の放置を何とかしなければと、今度は、別のプランターを配布し、平成12年はシャリンバイ、13年はアカバナトキワマンサク、14年はヒイラギを



## ●パナリスト 古塩正則

(ふるしまたのり)

長岡市在住  
長岡市立前川小学校元PTA会長

私たちの活動は、新潟県のチャレンジ21活動の一環として始まりました。JR前川駅より小学校までの間にサルビアを植えたプランターを配して、サルビアロードとして、親しまれています。緑のまちづくりは、何世代にも亘る取り組みですから子供たちに何を伝えられるかを考えながら活動しています。

植ええました。

私共の海岸地区は漁師の方が多く、白い発砲スチロールの箱がたくさん有りますので、それを利用して植栽をしていたようです。

植栽講習会で、専門的な指導を受けました。

この地域は、冬の強風と3月中旬から4月上旬にかけての潮風が一番の問題です。特に、春先の芽吹きが始まってからの風は芽を全部枯らせてしまします。その後、再度芽が吹くため樹形が崩れます。今後の課題は、潮風に強い花木の選定だと思っています。

**コーディネーター** 街道沿いの統一感など、苦勞されて花木を植えられた事で、街並や景観の保存へと意識が芽生えていくのだと思います。講習会は、植物栽培のあまり経験のない方が、植物を育てる知識が増えて学ぶ喜びを感じられたのではないかと思います。

**コーディネーター** 私の方の課題は、ホテルのある里山を守りたいけども、民有地であるがゆえに手が出せないことと、資金面の苦勞です。植栽は緑花センターからの補助金がありますが、炭焼きはチェーンソーやナタ、斧などの機材が必要です。それから、山の間伐や炭焼きは結構ノウハウが必要になります。

### まちづくりと活動の繋がり

街づくりを考えた場合、緑化は一つのアプローチだと思えます。そういった観点から今日のテーマである地域からまちへ、緑を活かしたまちづくりに、皆さんの活動が繋がるものを伺います。

### 緑のネットワーク

**亀田** 皆さんの活動は、人が手を加えた自然だと思えます。道にプランターを置くのは、而て広

## 高橋長究



●パネリスト  
柏崎市在住  
花と緑の環境づくりネットワーク会長  
柏崎市のみなとまち海浜公園、赤坂山公園、駅前公園他の保全並びに植栽などの活動をしています。  
私たちの活動に30社、7団体の方々より支援をいただいています。  
近頃は、市民の意識も高まっていますが、若い人たちの参加が少なく今後に期待しています。

がる自然に対して、線で広がる自然です。その線と面を繋げる事が大切だと思います。公園などが街の緑の核となり、川や山に繋がる線の自然があつて、それを全体的に緑のネットワークとして形成できればよいと思います。

街の景観として、最近郊外に増えた大きな駐車場を持つ店舗は道路から駐車場が見えて、それが店の顔になっています。そこに樹木を植えるとか、車止めの替わりに低木を植えるなどで、柔らかな街の表情を出せると考えています。

**コーディネーター** 街にあるちよつとチゲハグな人工的に街を取り巻く自然と、昔ながらの景観が街の中で一体感みたいなもの、線を面に繋ぐということはあるところかなという風に感じました。

**高橋** 会員もだんだん年をとり、足腰が弱くなっています。花と緑の会は法人、企業の関係者のお陰で何とかやっています。会に若い人達が前向きに参加してくれば、素晴らしい街づくりができると思います。女性の会員を増やすために、ガーデニングから入り専門の先生から講義や実際の諸法を教えるもらうことも大事だと思えます。

**コーディネーター** 緑化を通じた街づくりは、その地域に住んでいる老若男女が参加して、初めて出来ると思います。人を集めるには如何にその作業が楽しく速営できるかが、大きな課題だと思います。  
古坂さん、サルビアロードを維持していくための問題はありますか。

**古塩** 夏休みは水やりの際の危険を防ぐために、プランターを道路から一時的に撤去します。

それを各家庭に持ち帰って、庭や玄関に置いたり、神社の境内に並べて町内の人に楽しんでもらっています。このように、フラワーロードとは別の活動を併用する形で広げたら良いと思います。

**渡邊** 皆さんお困りの努力について、やはり花の植栽には女性パワーが大仕事だと思います。私は花を植える会にも関わっていますが、そのうちの約3分の2は女性です。  
**コーディネーター** 川瀬さん、地域の人の巻き込みや人材確保のコツなどありませんか。

**川瀬** 三条も雪が時々降ります。ふるさとの森は三条の古来からの植生を中心とした樹木なので、ある程度成長したら雪閉いはいらないと指導を受けた先生から言われました。現在、その森は全体がこんもりと成長して、数年前から雪隠いをしていません。  
自然はいつでも待っていてくれますので、会員さんの体調の良い時に作業を行っています。市内の緑関係の民間団体には、少しお金をお支払いして年間を通じて管理を



手伝ってもらっています。更に地域通貨(ラテ券)を使った努力に対する支払いもしています。

先程の亀田さんの緑の線と面のお話に関連して、私は線の前の点に気をつけたいと思っています。私のところの森が山から鳥が渡って来る中継点として、更に市街地の方へ鳥を誘導するために、クリニックの敷地に古来の植生、実のつく木を植えて繋がることで、街の雑踏の中にも鳥は行くと考えます。10年くらい前、ある協会の方がグリーン線の玉をネットワークのように都内に散りばめるといってグリーンネットワーク構想を東京都に提唱されたそうです。点から線から面へ持っていくという緑化の考え方だと思っています。街の中にも鳥や緑を呼び込むやり方で、うちがその一拠点になればと思います。

**地域植生と街のアイデンティティ**  
**コーディネーター** 地域通貨を使ってボランティアを呼ぶとか、地域のNPOを活用する事で人が集まり、集まった人が森やピオトープ作りをする事で緑化意識が芽生えるのだと思えます。鳥が種を撒いてくれるように、緑化に携わった方々が街に散らばり、そこで又何か活動することで、緑化が始まるきっかけになると感じます。



緑を点在させて、鳥を呼び込むというのには非常に良いアイデアです。数年前から三条市の全部の小学校で、ピオトープを作りました。学校区は、丁度、市内を適当な間隔で区切るわけです。各学校のピオトープは、鳥の生活圏が広がるという面では、地域の生態系、自然と共生するという事が言えると思えます。

## 川瀬弓子



●パネリスト  
三条市在住 櫻の森  
医療法人社団川瀬神経内科クリニックへ脳活性化リハビリテーションに通われる高齢者の方々とクリニックスタッフが、緑化活動を環境整備(緑花推進)と園芸療法を兼ねて始めました。  
一年を通して、除草などの管理作業や間伐材の処理作業を行う他、野外バーベキュー、ネイチャーゲームなどを行い楽しんでいます。

川瀬さん、サルビアロードを維持していくための問題はありますか。



高橋さんのお話された生垣について、個人的な意見ですが、生垣や並木に使う樹種は在来植生を使うことで、地域の風土、景観がアイデンティティを持つには非常に有効な手段だと思います。例えば、農村にハナミズキの並木があると多少の違和感を覚えますが、稲架木街道は非常に新緑らしいアイデンティティを感じられるわけです。雪椿の生垣なども雪国の雰囲気を出し、景観形成に有効ではないかと思えます。

## 緑SHUTUIN

**亀田** 田んぼの中の集落は、周りを木で覆われて緑が田んぼと集落を繋げるものになっています。緑は違った質の場所を繋ぎ合わせる、境界線のようなものとして使うことはとても有効だと思います。街路樹も歩行者空間と車道との境界線に用いているように、良好な景観の街づくりに必要なことだと思います。

**コーディネート** 街づくりに緑や草花を活用する。高橋さんのお話のように、地域の在来の植生をまず研究して地域の貴重となったものを守っていく緑化活動を街づくりに結びつけることで、街のアイデンティティを保った緑化活動が出来ると思います。

**渡邊** 行政から特に指示はありません。私共の考えは、妻入りの街並を如何に活性化するかと何ですか。

いう事を中心にして、その一つとして植栽があるという位置付けです。

**コーディネート** 出雲崎はすでに地域固有の景観があるわけです。それを更に、そこに住んでいる人の郷土意識や住んでいる街をより好きになるにはどうしたら良いかという努力をされていると思えます。それはすなわち街づくり、意識づくりだと思います。

## 最後に一言

**亀田** 私は今まで緑化活動に携わったことがないので、実際に地域の方々と一緒に活動されている皆さんのお話を聞いて、これからはソフトプログラムみたいなものも考えながら設計をしていければ良いと思います。

**渡邊** 私共は、例えば部屋の中に花一輪が飾ってあるという風情で十分だと思っております。10月には街の中に東京芸大生の絵を飾って、街並を歩いて頂く事業を行いました。お借りした一般のお宅では、それぞれ思い思いの花を飾り、お茶の接待をして頂きました。それこそ街の活性化に繋がるのではないかと思っております。

**川瀬** 私の一つの仕事として、同業である医療機関や福祉関係の人達にこの考え方を伝え、私達は、癒される、癒す、それから終末医療というところでも緑が活躍できるような事が出来れば、又努力していきたいと思えます。

**古塩** 昔の田んぼは草もいっぱい生えて、用水路

はグニャグニャ曲がり、めだかや虫もいっぱいでしたが、今は人工的な作られた田んぼに変わっています。人工的な中にもきれいな花が並んでくれれば本当に良いと思います。

**高橋** 私共のふるさと鏡子舞の里には、ホテルが沢山あります。ホテルを見に来られる方が、車を止めてアポロをあけておくため、ものすごくホテルが沸いて出てきます。そうすると、ホテルの生態系が狂ってしまうのです。

**コーディネート** ホテルの話ですが、雌ポタルはあまり飛ばないで木陰でチカチカしています。雄ポタルは点滅しながら空を飛んでいて雌ポタルを探しているんです。ウインカーをチカチカされると、雄ポタルが雌ポタルだと思って寄ってきます。そうするとホテルの繁殖の妨げになるという事です。

## 情報の共有、意識付け、行動、継続、人材の普及・拡大

**コーディネート** 皆さんの話から、今後の活動のやり方、方向として次のが大事になってくると思えます。

まず最初に情報の共有です。色んな活動や勉強をされている人、団体があります。普及事業も行われています。そういった情報を共有する事によって、わが街について考えるきっかけが大事になってくるのかなと思います。

その次に意識付けです。住民の方々に街づくりの意識を芽生えさせること、緑化という手段を通じて街づくりの意識形成を図る事が第2段階だと思えます。

今度は行動です。皆さんそれぞれの地域で素晴らしい実践活動を行っています。

行動の次は継続です。5年、10年、20年と続いている場所を好きになることから始め、もっと好きになるには、どうすべきかを考えていって良いのではないかと思います。

形成されたといえませんが。

最後に緑化の人材の普及・拡大です。多くの人に声をかけて活動を拡大し、街に住んでいる方々みんなの意識づくりにならないと、街レベルにはなりません。

情報の共有、意識付け、行動、継続、そして普及、拡大という事だと思えます。そして、得た情報をもとに再び情報の共有化を図ります。

## ● 会場での質疑応答 ●

**質問1** 街づくりや公園のリニューアルの必要性について

**亀田** 長岡には、どの町にもあるような児童公園が多い。歴史を伝えるような土地の資源を活かした公園づくりなど、公園自体のバリエーションやその土地にあったものが必要だと思えます。

**質問2** 緑化に携わった人や患者さんにとって緑の効果は

**川瀬** 効果を数字で表すことはできないが、痴呆の会員さんは、自然を相手にしたプログラムを遠くに行かなくても実施できるため、その継続率が高くなっています。一般外来患者の方からは、庭の景色を眺められる場所に待合室をつくったことで、ホッとするという声を聞いています。職員の方は、木を見ながら食事できる環境が癒しになっています。

**質問3** 生物多様性と活用について

**亀田** 地域の街づくりとして、里山の整備は住民の協力が必要だと思えます。

**小林** 里山というのは、人が関わらなければ里山でなくなる。難しい問題ですが、様々な活用手段を見出して保全していく必要があると思えます。

**亀田・小林** 自然体験学習の場、環境教育の場としての活用があります。



## 小林良範

(こはやしよしのり)

三条市在住 三条ホテルの会長  
(財)新潟県都市緑化センター  
花と緑のアドバイザー

私たちのフィールドは、大崎山です。そこには、ホテルの舞い飛ぶ小沢もあり、自然観察会などをしながら楽しんでいただけですが、近年、林道工事が行われ、少しずつ環境が変わってしまいました。その変化に気づき、市民にもっと地元

の自然の豊かさを知ってもらいたい、大切に思ってもらいたいと考えたことが活動のきっかけです。緑化活動についても、自分たちの暮らしている場所を好きになることから始め、もっと好きになるには、どうすべきかを考えていって良いのではないかと思います。

# 植物に親しむに 早春を楽しむ

## フラワーアレンジメント

生花を使ったアレンジメントで、一足早い春をご家庭で楽しみましょう。



今回は、平成15年2月23日に、新潟県スポーツ公園のレストハウスにて開催されたフラワーアレンジメント教室の内容をご紹介します。

当日は39名の方から参加いただき、にぎやかに開催されました。講師は、緑花センター花と緑のアドバイザーの上木優子さんです。

本誌記者も参加者の皆さんとともに先生の指導を受け、そこで実際につくったものを皆さんにご紹介したいと思います。



●先生紹介  
上木優子さん  
フラワーデザインスタジオ花詩人を主宰し、フラワーアレンジの講師としてご活躍しています。

### ⑤仕上げる



最後に、桃の枝元を残りの花で飾ります。オアシスが隠れるように花で埋めていきます。葉の花の葉は、枝元を飾るグリーンとして活用します。アイビーは葉を活かして他の植物に絡めたり、2、3本に切り分けて挿して添えてもよいでしょう。

今回の体験では、実際に茎を切るときに慎重になりすぎて中途半端な長さになってしまいました。完成した作品の反省点として、チューリップやラナンキュラスに高低差をつけると変化があって良かったのではと感じました。

ご自宅で飾るフラワーアレンジメントですから、皆さんの感性で自由に行ってみてください。また、ラッピング素材を工夫したり、テーブルクロスやタペストリー（壁掛け）などを用いてより素敵な空間を演出してみましょう。

### 記者の感想

### ③桃の枝を飾る

器（土台）が完成したら、花を飾っていきます。まずは軸となる桃の枝を飾ります。ここでは桃の枝を2箇所配しました。



●ポイント：大振りの枝は、切り分けて使います。その際、枝の出ている方向にあわせて剪定します。

### ④大形の花を配置する



チューリップやラナンキュラスなどの大形の花ものから配置し、位置を決めていきます。次に、小ぶりの花ものを配置します。オアシスに挿す部分は、余分な葉や枝を落とします。

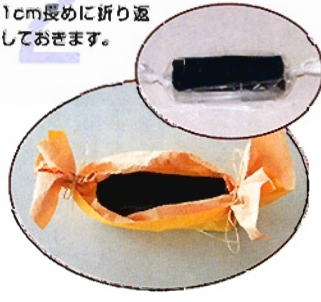
### ①土台をつくる

最初に花を活ける器（土台）をつくります。オアシスはたっぷり水を入れたバケツの中に漬けて、水をふくませておきます。

●ポイント：このとき、早く水をふくませようと手で水の中に押し込んだりすると中心まで水がしみこまなくなるため、自然に水がしみこむのを待ちます。

### ②ラッピングする

オアシスの側面を透明シートで包み、左右をビニールテープで縛ります。透明シートはオアシスより1cm長めに折り返しておきます。



さらにその外側を和紙（ここでは裏表の色が異なる和紙を使用します。）で包みます。ラッピングの要領で、裏表の色の違いを活かしたり、形をくずしたりして皆さんの好みにあわせてつくります。

### 準備するもの

- 桃（桃の他に好みのお花をご用意ください）
- ナデシコ、スイートピー、マーガレット、チューリップ、葉の花、ラナンキュラス、ブルースター、パンジー、アイビー



- 透明シート、オアシス、和紙、ラフィア



- バケツ、花ばさみ、ビニールテープ

### 管理について

アレンジしたら霧吹きで全体にスプレー仕上げをする生き生きします。暖房の効いた部屋に置く場合は空気が乾燥しているので、ときどき霧吹きして湿気を与えるようにするとよいでしょう。オアシスは一旦乾燥させると吸水が悪くなるので常に湿った状態に保つよう水を替ってください。